

はじめに

近年、東京の農業は都市化による生産環境への影響に加え、農業者の高齢化や後継者の不足等により、農地の遊休化や低利用化が問題となっています。

公益財団法人東京都農林水産振興財団は、平成25年度より東京都の委託を受け、農業協同組合（以下「JA」という。）、NPO法人・グループ及びボランティアといった農業者を応援する農作業サポーターの育成に取り組んでまいりました。

この冊子では、都内で農業者を応援する取り組みの一部をご紹介します。



目次

1	NPO・グループ活動の紹介	1
	① NPO法人たがやす（町田市）	2
	② NPO法人日野人・援農の会（日野市）	4
	③ NPO法人すずしろ22（八王子市）	6
	④ NPO法人めぐみ（日野市）	8
	⑤ NPO法人八王子ひよどり農業支援センター（八王子市）	10
	⑥ 立川野菜づくりボランティア（立川市）	12
	⑦ 援農ボランティア「楽の会」（小平市）	14
	⑧ くにたち・梨園ボランティア（国立市）	16
2	JAによる農作業支援の取り組み	18
3	地域での援農ボランティアの推進	22
4	広域援農ボランティア制度の紹介	24
5	〔巻末資料〕農作業サポーター支援事業 主要実績	28



1 NPO・グループ活動の紹介

（公財）東京都農林水産振興財団では、これまでに農作業受託組織の育成として、都内JAやNPO法人等を対象に研修会、農作業安全講習会等を開催してきました。

ここでは、平成26年度に実施した援農に係るNPO法人・ボランティアグループ情報交換会にご参加いただいた8団体の現在の状況を紹介します。

農作業支援は、地域の農家において有償または無償で、播種、栽培管理、収穫、出荷調整など6団体で行っていました。その他の団体は、農作物の販売・学校給食への提供、市民農園の管理・指導の取り組みにより農地の保全に寄与していました。

今後の方向性として、活動を継続・拡大していく団体が多い中、会員の高齢化により解散を決めた団体もありました。

活動の目的

- 多面的な機能を有する東京の農地の維持・管理
- みどり豊かで活気に溢れたまちづくり
- 社会教育の推進、環境保全
- 健康増進、コミュニケーションを深める など

活動の概要

- 農作業の支援（援農ボランティアなど）
- 地産地消の推進（地場野菜の販売、学校給食への提供、料理教室など）
- 市民農園・体験農園の管理・指導
- 援農ボランティア育成 など

活動の課題

- 会員の高齢化や減少による支援力の低下
- 日程調整の難しさ
- 農家から求められる人材と会員の技術力の乖離
- 栽培技術や専門家の不足
- 資金不足 など



葉物野菜の管理作業（援農ボランティア「楽の会」）



梨の受粉（援農ボランティア「楽の会」）